

五月の俳句

(2 0 2 0 / 0 5)



目次

たべもの俳句	モロク俳句	歳時記俳句
12 ↳	8 ↳	1 ↳

立春から数えて 88 日目が八十八夜です。「八十八夜の別れ霜」といわれるように、日本の大半の地域ではこの日から後に霜が降りることはめったになく、農家が霜の被害から開放される目安とされてきた日です。

(宇佐美保幸)メール・zeirisi777usami@aol.com

毎日の俳句は次のブログに
巣鴨とげぬき徒然俳句

<https://blog-haiku.777usami.com>

沙美の海やはらかき風夏に入る
幾たびの米研ぐ八十八夜かな
八十八夜動物園は雨の中
大人には恥かさび抜き五月来る
雨粒がエゾエンゴサク際立たせ

咲くほどにどこか儂き白牡丹
だらしなく花びら散らし牡丹果つ
雨に濡れ泣いてしまった牡丹かな
決心し花を散らした牡丹かな
強がりて孤独に散るや白牡丹
また牡丹花咲かすために花散らし

満ち満ちて地と空結ぶ芝桜
芝桜迷路のような道がある
数えても果てしなく咲く芝桜



クレマチス星を眺めて独り言
山じゅうの躑躅いっせいに走り出す
山開き深山霧島眼下に見
珈琲の豆を選んで躑躅咲く
寺巡り楽しみとなりつづじ咲く

咲き競う薔薇の誠は真実か
薔薇の花ピアスの男好きですか
薔薇の花男の嘘は承知して
青い薔薇九本贈って恋成就
真実など無意味なことか赤い薔薇
認知症彷徨先はバラ園に
荒川線薔薇を眺めて往復す
ランドセル重そう薔薇は元気なり
右左馬鹿なマスコミ薔薇にとげ
男たち回遊すれば紅き薔薇
薔薇の赤口紅の赤赤競う
東京の路面電車や薔薇の花



ブル^ポー^ポー^青の神秘を日光に
声かけを期待している^ポー^ピーかな
天空の^ポー^ピーの赤の^セレ^ナー^デ
ひなげしの癩癧はげし揺れ揺れて

サルビアは集団主義か群生す

初夏につき皇居一周哲学者
初夏の爪切る音^プッ^チン^ホッ^チキス
メダルなど競うことなし初夏の雲
銀座初夏^コー^ヒー^ラテに大時計
田に水を引いて匂いし初夏の風
リバーサイドやはり陽水初夏の風
初夏の風^ミン^ティ^ア口に三十分
自転車で走るしまなみ風青し



エゴの花白くこぼれて星またぐ
えご散るや仏にすがる寺参り
杜若ゴッホが描けば黄一色
かきつばた飛び立つごとく美しく
華やいでどこかさみしい藤の花
白藤はなにやら乳房ほの揺れて
ゆるゆると脱力系の藤の房
今年また藤のむらさき変わらざる

寝て食べて庭の若葉で過ごす日々
蓄えし木の精をを燃やす若葉かな
若葉して青葉して要は万緑
若葉なりされど鬱々引きこもり
若さとは孤独か群れか若葉風
スニーカー空に飛び出し若葉風
校庭で鉄棒をする若葉風
恐竜図鑑パラパラめくり若葉風



雑草をめぐげずに抜いて若葉風
東上線川越過ぎれば青葉濃し
青葉など眼中になし吊り橋で
鎌倉でカフェ巡りする青葉雨
青葉雨世界遺産の古墳群
青葉雨必ず負けるじゃんけん
若葉雨静かに落ちて子守歌
若者は青葉時雨のランニング
瀬戸の海島ごとにある青葉風
牧牛に蒜山高原青葉風

ポケットにのど飴一個著莪の花
著莪の花咲くおとこ道おんな道
著莪の花静かに静か日々に咲く
羅漢像黙ってそこに著莪の花

システムが壊れて生まれ蠮螋や
生きがいの世論調査や蠮螋よ



もじやもじやとなんじやもんじやはソクラテス
ライラックパソコン音楽ふと止まる
くちなしが今年も咲きました白し
どこまでも白し白し花くちなしは

麦秋や「紀子三部作」原節子
何度でも秩父遍路の麦の秋
星雲の渦なるごときこごみかな
田植見てまた田植見て東上線

あの人と別れた後の花水木
ひみつひみつひみつ大好きハナミズキ
一青窈ずれて唄うかハナミズキ

ままならぬモッコウバラを丸坊主
燃え上がる宇宙に届け青嵐
底深く地下鉄走り青嵐



何かも山積みにして夏が来る

夏が来たロボットには季などなく
夏来るスマホケースも入れ替えて
沙美の海風の記憶の夏来る
珊瑚礁の数億夏来る
宅配で素麺来る夏来る
ダイビング巨大マントの夏来る



モロク俳句

モロクしたただだ生きる弥生かな
モロクし現世つかのま嗚呼五月
モロクしなんだかんだと初鯉
青春はモロクしても白牡丹

モロクしポピとひなげし別の花
ひなげしの癩癩ゆれてモロクす
クレマチス強がりひとつモロクす
金雀枝やモロクすれば色あせる
金雀枝や意志薄弱にモロクし
モロクし輝き失い花あざみ

モロクし新茶の味の区別なし
モロクし不器用に生き古茶新茶



モーロクし寂しさ耐えて新茶飲む

えごの花モーロクすればふさぎ込む
えごの花うつむく日々をモーロクし
手毬花疑心暗鬼にモーロクし
踊子草モーロクしても宝くじ
じゃがいもの花咲き吾はモーロクす

瀬戸の海吾はモーロク青嵐
モーロクし義憤は不要青嵐

モーロクし昔話の若葉風
モーロクし時間は自由若葉寒
若葉雨モーロクしてもパソコンを

モーロクし大志も忘れて昼寝する
モーロクし念仏忘れ風薫る
モーロクし謝罪ばかりの柿の花



モーロクし病むこと重ね豆の飯
 藤の花モーロクすれば狂い花
 藤の香にモーロクすれば溺れけり
 モーロクしほほ杖ついて桐の花
 モーロクし妄想ばかりや月朧
 モーロクし常に狂いを藤の花
 運命やモーロクすれば夏落葉
 モーロクしひとり巧笑葱の花
 モーロクしひとり大声薄暑かな
 憐憫というはモーロク卯波立つ
 初夏の風記憶を整理モーロクし
 青葉風我はモーロクどんどんと
 モーロクし緑の風はわけて濃く
 モーロクししみりしみりと麦の秋



モーロククしやましきままに麦熟れて
モーロクしでんぐり返し麦熟れる
季節来るモーロクしても更衣
更衣むなしきことにモーロクし



たべもの俳句

山菜の揚がる天ぷら五月来る
なんとなく筍飯の夕食で
そら豆の醤油煮作り五月晴れ
弁当に蚕豆数个詰めにけり
柏餅吾が子がすべて親馬鹿に

牛井で祝う我が家のこどもの日
だし卵上手に出来てこどもの日

立夏なり麻婆茄子で夕ご飯
チヨコパンとカルピス好きな夏立つ日

露ゆでて無心になりし男いて
露煮物精進料理の浄土かな



豆飯のふかふかまるく五月来る
世の中に豆はいろいろ豆ご飯
豚肉の塩糰焼つつじ咲く

さくらんぼあなたのお恋など無関心
さくらんぼつりつるつると磨かれて
口紅の色もいろいろさくらんぼ
さくらんぼ異国産さざめきて
宝石のサクランボかな格差あり

乙女らは売られてしまひさくらんぼ
さくらんぼ種を飛ばしてギネスにも
さくらんぼ黙つていても顔見れば
さくらんぼ旅に出たのはよいのだが
男らも何故か笑顔でさくらんぼ
夫婦してちようど良き数さくらんぼ



新茶には大きすぎたるマグカップ
サラダにはオリブ油みどりの夜
夏野菜素揚げにおろしたっぷりと
のり弁当うまし五月の孤独飯
若葉風餃子を焼いて紹興酒

カツサンドなにはともあれ風薫る
風薫るカツサンドを真つ先に

雷雨には負けじステーキ300グラム
稲荷寿司二人で食べて黄金虫

小満や飯が残れば冷凍に
小満やお昼おにぎりたくあんも

夕暮の陸橋高く青山椒



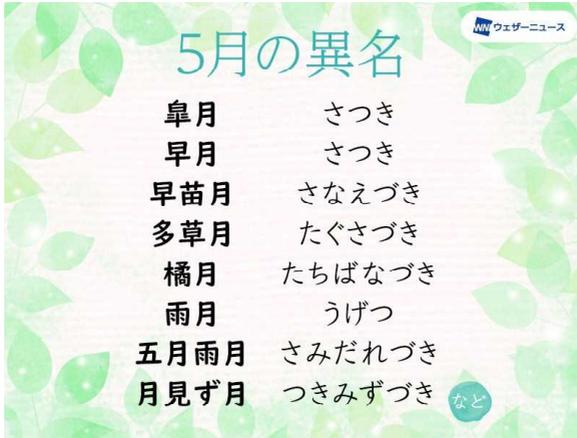
肉じやがの肉を迷って夏の月
将棋負け冷やし中華にからし効き
自家製の野菜ふりかけ夕薄暑
沖繩の早い梅雨入りゴーヤーや
オムレツをふわりと焼いて柿若葉

ズッキーニ焼いて炒めて夏初め
弁当にキウイも加え夏初め
初夏の風海老炒飯の海老かぞえ
自家製の煮豚に辛子初夏の風
バス旅行帰りに駅弁夏はじめ

海老ピラフ海老を数えて竹の秋
夏つばめ豚カツうまし日曜日







< 5月の異名「皐月」 明暗が同居する季節 >

5月の異名で最も代表的なのが「皐月(さつき)」です。早苗を植える頃の月という意味で、「早月(さつき)」とも言われます。

「皐」の字には「神に捧げる稲」という意味があるようです。きらきらと輝く水田に植えられた色鮮やかな稲を見ると、5月だなと実感する方も多いかもかもしれません。この頃は、日ざしが少しずつ強くなりますが、まだ湿気が少なく過ごしやすい季節です。ただ、旧暦の5月は現在の6月にあたるため、今の5月の異名には明るい初夏と暗い梅雨シーズンを表す名称が同居しています。

風薫る五月、初夏の印象からは早苗月(さなえづき)、多草月(たぐさづき)、また初夏に咲く橘の花にちなんで橘月(たちばなづき)などのすがすがしい命名があります。一方、梅雨の印象からは雨月(うげつ)、五月雨月(さみだれづき)、月見ず月(つきみずづき)などの雨や曇りなどを連想させる名称も目立ちます。

<https://weathernews.jp/s/topics/202004/140225/>

